

〇-9

本学のリカレント教育（産学連携の教育プログラム）の実施状況ーキャノンメディカルシステムズ株式会社社員の病院実習ー

○永井 睦子、円谷 亮二、稲葉 孝子、東川 ゆき子、牧 尚伸

獨協医科大学 SD センター

令和4年度、本学は企業・産業界等と連携して就業者のキャリアアップを目的としたリカレント教育を実施した。リカレント教育とは、大学等が企業・産業界等と連携して教育プログラムを提供するとともに、就業者のキャリアアップを目的とした教育プログラムである。本学においても「地域社会への貢献」の観点から「地域の就業者向けプログラムの実施」や「自治体や産業界と連携した社会人対象のプログラムの実施」をするための事業として、新たに令和3年度企画を検討し取り組むことにした。

今回は、キャノンメディカルシステムズ株式会社（本社：栃木県大田原市）と連携し、同社社員向けに病院実習を通じた教育プログラムを年間3回12名に実施した。その研修内容と研修生の反応をまとめ報告する。

〇-10

医学部3年生を対象としたシナリオを用いたコミュニケーション教育

○大沼 広樹、野澤 成大、土屋 智裕、鈴木 圭輔

獨協医科大学病院脳神経内科

【目的】医学部3年生が臨床現場におけるコミュニケーションを学ぶ機会である参加型病院実習（ACHI）について、コロナ流行を踏まえ、教室内でも実施可能な実習方法について検討し、実施したため報告する。

【方法】全体を7～8人のグループに分け、ロールプレイ形式の実習を行った。各自が自ら引いたカードに書かれた立場で話し合うことで、コミュニケーションの重要性や、意思決定の難しさを学べるよう設計した。

実習の最後に選択肢形式のアンケートを実施し、学習度合いの把握を行った。

【結果】参加者は118名、アンケートの回収率は90%であった。各項目に関しては「意見を述べることができたか」、「他者の意見を尊重できたか」の問いには過半数が「そう思う」と返答した。逆に「意見をまとめるよう行動できたか」、「意思決定を実際に実行できるか」の問いには否定的な回答がやや多い傾向であった

【考察・結語】臨床現場では意思決定のため、インフォームド・コンセントや Shared decision making (SDM) が用いられているが、学生生活では意識してこれらの手法を選択・実践するケースは少ない。

医学部3年生は発言、傾聴に関しては熟練しているものの、意思決定に関しては発展途上である可能性が示唆された。今後はより効果的な実習方法を検討していきたい。